



盛岡市プレスリリース

～輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡～

令和7年11月12日  
教育委員会事務局歴史文化課

市政記者クラブ加盟社 各位

## 金沢家資料感謝状贈呈式について

このたび、資料を盛岡市に寄贈されることとなりました。それに伴い、感謝状贈呈式を下記の日程で執り行います。

つきましては、市民の皆様への周知について、御配慮くださいますようお願い申し上げます。

### 記

【日時】 令和7年11月19日（水）午前10時から

【場所】 盛岡市役所本庁舎4階 市長応接室（盛岡市内丸12番2号）

【内容】 寄贈者に対して感謝を意を表すため感謝状を贈呈する。

【出席者】 盛岡市長ほか

【その他】

寄贈資料について詳しくは、もりおか歴史文化館（019-681-2100）又は盛岡市先人記念館（019-659-3338）までお問い合わせください。

### 【担当】

盛岡市教育委員会事務局歴史文化課

担当：阿部（あべ）

電話：019-639-9067

## 資料の概要

寄贈資料：金沢家資料 8件13点

寄贈の目的：盛岡市先人記念館及びもりおか歴史文化館での展示及び研究資料として。

主な資料：以下の通り

資料名	特記事項（内容など）	収蔵先
一行書「撫孤松而盤桓」	軸装、紙本墨書。 尾高惇忠の書。尾高（顕彰先人 1830～1901 雅号：藍香）は埼玉県の出身。養蚕家で富岡製糸場の初代場長をつとめた。明治10年(1877)、盛岡に第一国立銀行出張所が設置されると支配人として着任。当地の産業発展に尽力した。渋沢栄一はいとこにあたる。 「孤松を撫して盤桓す（松をいつくしみながら歩き回る）」は、中国・東晋時代の詩人陶淵明の詩「帰去来の辞」の一節。	盛岡市先人記念館
七言二句「忍而齎齊家上策勤與儉創業良図」（屏風）	紙本墨書、四曲一隻。 山口剛介の書。山口（顕彰先人 11857～1934。雅号：刀岡、梧宇、五雨）は盛岡出身で、岩手師範学校等で書道を指導した。漢詩人・書家として活躍し、市内の寺社に剛介の筆による扁額等を見ることができる。漢詩の出典は不明だが、篆書体で「忍而和齊家上策勤與儉創業良図」（忍と和は一家を整え治めることの上策であり、勤と儉は創業の良図である）としたためている。酒宴の場で書いたこと意味する「酔客」という語を用いた「刀岡酔客」という署名をしている。	盛岡市先人記念館
一行書「撫孤松而盤桓」	軸装、紙本墨書。 尾高惇忠の書。尾高（顕彰先人 1830～1901 雅号：藍香）は埼玉県の出身。養蚕家で富岡製糸場の初代場長をつとめた。明治10年(1877)、盛岡に第一国立銀行出張所が設置されると支配人として着任。当地の産業発展に尽力した。渋沢栄一はいとこにあたる。 「孤松を撫して盤桓す（松をいつくしみながら歩き回る）」は、中国・東晋時代の詩人陶淵明の詩「帰去来の辞」の一節。	盛岡市先人記念館
二幅対 右：義家の奥州下向 左：頼朝の伏木隠れ	106.3×42.2cm。箱書「御掛物 菊池容斎筆 二幅対」菊池容斎は江戸末期から明治末期に活躍した江戸の画家。狩野派や土佐派を学び、歴史画を得意とする。画題は盛岡藩主南部家と同じ清和源氏（厳密には甲斐源氏と河内源氏）である、源義家と源頼朝に関する逸話。	もりおか歴史文化館
架鷹図屏風	181.3×61.6×10.6 cm 六曲一双 署名には「玉僊七十一歳筆」とあり、狩野派の盛岡藩絵師の家柄である湯川玉僊の作品と考えられる。玉僊の生年が1812年（文化9）であることから本作は1882（明治15）年頃の作と考えられる。画題の鷹は武家社会において贈答品として珍重されており、鷹を描いたものも喜ばれた。	もりおか歴史文化館



一行書「撫孤松而盤桓」



七言二句「忍而蘇齊家上策勤與儉創業良園」(屏風)



架鷹図屏風